

シリーズ各区ですすむ住民主体のまちづくり

美しいまち西区～新しい田園都市をめざして

今回は、西区でのまちづくりの取り組みについて紹介していきます。

1. はじめに

西区は、昭和22年に旧明石郡の伊川谷、櫛谷、押部谷、玉津、平野、神出、岩岡の7か村が神戸市に合併、垂水区に編入された区域で、昭和57年に垂水区から分区し、今年22周年を迎えます。神戸市の西端に位置し、明石、三木の2市と加古郡稲美町に隣接しています。面積は市内の約25%を占めており、緑豊かな地域に明石川本支流が流れる“神戸のふるさと”とも言える地域です。人口は、分区時には9区の中で最少でしたが、「住み」「働き」「学び」「憩う」という複合的な機能を備えたニュータウン・神戸電鉄沿線の開発、区画整理事業などにより急増し、現在では9区最大の約24万人となっています。

2. 西区の現状

西区の産業は、これまで農業が中心であり、稲作のほか都心近郊の農業地域としての特色を活かした園芸・酪農・観光農園が盛んでしたが、最近ではこれらに加えて農業体験施設や市民農園等が増えたことにより、都市部と農村部の新たな交流拠点が生まれ、旧市街地の地域との交流も始まっています。これらの取り組みは、「里づくり計画」の実践として進められています。

他方、西神工業団地・西神第2工業団地などへのエレクトロニクスや精密機械等の先端分野の工場進出で、近年は、工業が西区の産業に占める割合も大きくなっています。現在、明石海峡大橋や山陽自動車道に直結した神戸西インターチェンジと一体となった「神戸複合産業団地」の整備が進められており、全国に広がる広域幹線道路網を活かして流通・工業・研究開発系機

能を併せ持つ新しいタイプの産業団地として注目されています。

また、西区は太山寺・如意寺・神出神社・住吉神社・岩岡神社などの神社仏閣や王塚古墳・木津磨崖仏・太山寺磨崖仏などの史跡、「鬼追い」「獅子舞」などの伝統芸能も数多く伝承されている歴史と伝統を持った地域でもあります。

3. 西区における住民主体のまちづくり

西区では、区別計画の基本理念として、「太陽があふれ、豊かな緑、緩やかに流れる水、そこに広がる“田園都市”西区」の創造を掲げ、その実現に向けて、従来より「区民まちづくり会議」のもと、「西区21世紀・復興記念事業」や「西区区制20周年記念事業」などを通じて、区民・事業者・区の「協働と参画」によるまちづくりを推進してきました。特に、西区21世紀・復興記念事業の経験を活かし、それぞれの地域の魅力をより多くの人たちに発信しようと、“ウォーキングイベント”“川まつり”“花のさとづくり”など地域の魅力資源を活かした手作りのイベントを、地域のみなさんが力をあわせて取り組んでおり、平成16年度は4月から11月までの期間、「西区ふるさとまつり」として展開しました。メイン行事をいくつかご紹介します。

①みどりと太陽のまつり

(5月15日: in 西神中央公園及びプレんティ広場)
神戸まつり西区協賛会が主催し、区民の交流と文化振興を目的に開催しています。西区ゆかりの伝統芸能や地元グループによるダンスや演奏などがにぎわいを演出しました。JA 兵庫六甲や埋蔵文化財センターなどとの協働により、西区の魅力を存分に発信しました。

「復興再開発事業の今(震災後10年を前に)」その1

1. 神戸市の都市構造

神戸市は、六甲山が背後に迫る地形的な特性や港を中心に発展してきた歴史的経緯から、既成市街地が六甲山の南側に細長く東西に発展してきました。

神戸市では、これまでも地元が自ら生活圏のまちづくりに取り組まれる場合に、住民参加のまちづくりの進め方を示した「まちづくり条例(神戸市地区計画及びまちづくり協定等に関する条例)」を、震災前の1981年に制定して、地域特性を活かしたまちづくりを進めてきていました。

神戸市基本計画(第4次マスタープラン)では、各地域の特性に応じて都市機能を分担しながら魅力ある都市を形成するため、都心、副都心、衛星都心を設定し、市としてもいち早く再開発事業に取り組み、これらの中心核の整備を進めてきました。

再開発事業の施行地区位置再開発事業の施行地区位置図



2. 安全・安心なまちづくり

2-1. 震災復興の基本スキーム

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は日本で初めて近代的大都市における直下型大地震であり、既成市街地が広範囲にわたって被害を受けました。

特に、戦災を免れた地域や老朽木造住宅が密集した地域において、市街地大火が同時多発的に発生するなど、インナーシティ地域での被害が甚大でした。

これらの被災地を緊急に整備し、災害に強い活力ある市街地に再生するとともに、良好な住宅の供給を促進するため、同年2月に「神戸市震災復興緊急整備条例」を制定し、被害を受けた地域を広く震災復興促進区域(約5,887ha)に、特に緊急かつ重点的に都市機能の再生を行うべき地域を重点復興地域(約1,260ha)に指定しました。

復興まちづくりの基本方針としては、同年6月に「神戸市復興計画」を策定し、「安心」「活力」「魅力」ある都市づくりを市民と「協働」で取り組んでいきました。

2-2. 震災復興市街地再開発事業

大震災により、壊滅的な被害を受けた東西の副都心

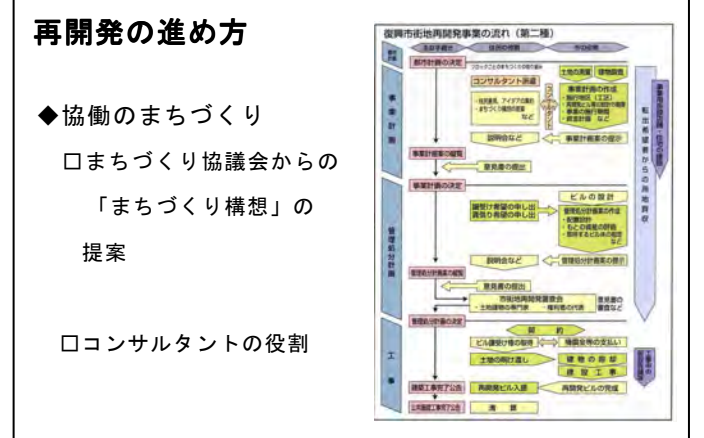
地域では、都心機能の導入を図るとともに、道路、公園等の公共施設整備とあわせて良好な住宅の供給、商業・業務環境の改善を行い、災害に強い東西の副都心にふさわしい防災拠点として早期に復興を進めることが、焦眉の課題でした。

このため、神戸市では、市施行による復興事業として、駅前地区において市街地再開発事業、また、その周辺では土地区画整理事業により取り組むことになりました。

事業の実施にあたっては、第1段階で、事業区域や主要な道路、公園といった都市施設の基本的な計画の枠組みを定め、第2段階で身近な生活道路、公園について住民意向を反映させた上で定めるという2段階方式の都市計画の決定により進めています。

被災直後には多少の混乱はありましたが、その後、各地区において住民等によりまちづくり協議会が設立され、市から派遣したまちづくりの専門コンサルタントの支援のもと、協働のまちづくりにより、進めています。

協働のまちづくりによる再開発の進め方を以下に示します。



その中では、住民が行政、専門家と話し合うとともに、まちづくり協議会を核として地元の意向把握に努めながら、自分達のまちの将来像を、地域の創意として「まちづくり提案」にまとめていっています。

各地区とも、それを尊重して進める協働のまちづくりにより、事業計画に反映していくなど、順次事業化を図っています。

震災復興の市街地再開発事業については、JR六甲道駅南地区(5.9ha)およびJR新長田駅南地区(20.1ha)において実施しています。

田谷 孝壽(神戸市都市計画総局再開発課計画係長)

②西区水辺フォーラム

(7月24日：in和田清水広場)

今年新たに発足した押部谷町明石川愛護協議会と西区役所との共催事業として開催されました。「水辺を活かしたまちづくり」をテーマに、クリーン作戦、伝統芸能や合唱等のステージ、パネルディスカッション、川遊び、模擬店など、川辺の1日を楽しみました。



③西区田園アンデパンダン

(8月～9月イベント、

10月3日メインイベント：in神出町)

平成12年度から、農業振興や農村の活性化に取り組んでいる神出町雌岡山南地区まちづくり研究会が中心となり開催されました。神出の自然や田園風景



を背景に、神出の自然を活用したものづくりや農村体験を地元住民とニュータウンなどの住民が協働で行うことを通じて、「都市と農村、世代間の交流促進」や「ふるさと意識の醸成」が図られました。

④各町ウォーキング(10月～11月：区内各地)

地域の魅力をより多くの人々に広めるため、地域のみなさんが主体となって、区内各地で様々なウォーキングが展開されています。今年も、玉津町、伊川谷町、神出町、押部谷町、岩岡町で実施され、多くの人で賑わいました。

また、区民自らが主体的に地域の魅力を活かし、まちの将来の検討や課題解決、地域の活性化につながる活動を支援することを目的に、民間の人材を地域に派遣する「まち育てサポーター」も平成14年度から導入され、これまで学園都市、櫛谷町、西神中央、押部谷町でそれぞれ実績を上げています。

4. 今後の展開

西区では、現在区民まちづくり会議の各部会でのワークショップ等を通じて、地域に根ざしたまちづくりの指針である「区の中長期計画」の策定作業を進めています。今後も、恵まれた自然環境や地域で長い間育まれてきた文化・芸能といった西区が古来から持っていたもの、先端産業・研究教育機関など新しいものも含めた、それぞれの地域が持つ魅力ある個性を大切にしながら、地域間、そして区民相互の交流を深め、区民とともに作る快適な「美しいまち西区～新しい田園都市をめざして」をメインテーマにまちづくりを進めていきます。

(西区まちづくり支援課)

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

11月22日(月) ～12月10日(金)	メロディーブリッジコンテスト	建設局道路部計画課
12月10日(金)～27日(月)	景観・ポイント賞受賞作品展	都市計画総局地域支援室

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
12月 9日(木)～14日(火)	水彩華くらぶ展	水彩華くらぶ
12月16日(木)～19日(火)	あさひGF アートと出会う(油彩他)	あさひグリーンファミリー

「第19回神戸景観・ポイント賞」 受賞作品が決まりました

今年も神戸のまちに個性が光る ポイントが生まれました

神戸市では、周辺の景観に調和しながらも個性が光るポイントや、地域にふさわしい優れた景観形成に貢献したと認められる建築物やまちなみなど、まちの中できらりと光るポイントを「神戸景観・ポイント賞」として、表彰しています。今年度は、市民の皆さまから推薦された59件の候補作品のなかから、選考委員会の選考を経て、6件の受賞作品が決まりました。受賞した6作品をご紹介します。

■「神戸栄光教会」

～景観復興のシンボル（記憶の継承）

震災で全壊した旧・栄光教会は、神戸の都市景観にとって重要な近代洋風建築物であった。震災から10年を経て再建された栄光教会は、元の建物のデザインを忠実に再現しながら、建物のセットバックにより新たな広場を生み出し、また地下のサンクンコートやシースルーエレベーターなど従来になかった要素を取り入れ、もとのデザインにうまく融合させている。

震災により神戸の街並みは大きく変化したが、近代神戸の歴史の中でも重要なこの場所において、旧建物の風格ある外観の創造的な復元と再生が果たされたことはまちなみ景観上大きな意味がある。



受賞作品のパネル展 開催中です

今年度の受賞作品のパネル展示を、「こうべまちづくりセンター」1階にて開催しています（12月27日まで）。これまでに受賞した全19回計158作品がご覧いただけます。

■「灘浜サイエンススクエア」

～工業地帯の中の新たなオアシス

コンクリート打ち放しと鉄による軽快なデザインの建物と、建物を埋設した緑化マウンドや敷地内のピオトープなどの自然の要素がよく調和している。また隣接する灘浜緑地と一体となって市民の憩いの場を提供し、工業地帯の中で新たなオアシスを生み出している。



■「質屋会館」 ～まちの中で光るデザイン

まちなかの小規模な建築物で、ガラスブロックを全面に用いたファサードがまちなみに変化を与えている。さらに夜間には内部の光によってその表情が変わり、夜間景観にも寄与している。

■「terrace g」 ～通りからの景観への配慮

同一設計者による既存の隣接建物と表情を変えながらも調和したデザインがなされ、また殺風景になりがちな屋外階段部分に目隠しのガラス壁を設けるなど、通りからの景観に配慮した工夫が各所に見られる。

<特別賞（まちなみ賞）>

昨年度から「特別賞」として、地域が一体となってまちづくり活動を行うことにより形成された“地域らしさ”を持った美しいまちなみを表彰する「まちなみ賞」を設けています。今年度は、日頃からまちづくり活動に励んでおられる以下の2団体が選ばれました。

■「まちなか緑地」 ～緑化まちづくりの取り組み

都市計画道路湊町線の残地を活用し、地域主体で手づくりの沿道緑化が図られており、緑化の取り組みを通し、地域コミュニティ活動の拠点が形成されている。さらに周辺空地の緑化を進めるなど、地道なまちづくり活動が継続して行われている。

■「トアロードのまちなみ」

～花と緑あふれるまちなみの形成

沿道を花と緑あふれる景観にするため、協議会が中心となって、歩道上のオープンガーデン「風の庭」の整備・管理を進めるとともに、再建されたNHK神戸放送会館の緑化スペースを誘導するなど、緑化・飾花の活動を通して都心にうるおいをもたらしている。

（都市計画総局地域支援室景観係）